

# 10月の生活表

2018年 10月

聖マリア幼稚園

月主題：取り組む

・保育日数 （22日）

月目標：・ 神様のくださっている力を合わせて共に過ごす。

- ・ いろいろな遊びの中で、身体をたくさん使う心地よさも味わう。
- ・ 遊びに熱中し、繰り返し取り組むことが楽しくなる。

いよいよ、心地よい季節がやってきました。近頃の日本の四季は行きつ戻りつで、スムーズな移り変わりはなく、日々の天気予報を確認してしまう毎日なのではないでしょうか。でも、25度を境に半袖か長袖かを着用すると良いでしょうとの予報もあります。これ本当かな？と思う事があるのです。統計上データで纏められているでしょうから、ほぼ間違いなく天気予報と同じように自分たちの生活の中に入り込んで、受け入れているに違いありませんね。でも、半袖か長袖かを感じる時。置かれた環境、本人の体感温度や好みなどにより、違って当たり前。大体の予想を立てることの必要と共に、自分で判断する、いえ、しようとする機会を奪ってはならないと思います。特に、これから成長して自分で様々なことを感じ、考え、判断していかねばならない子ども達において、大人はその考えを強要してしまわないように、「自分で考える」ことを奪ってはなりません。身近な日々の問題として、寒い！ 暑い！ を感じ、ならば自分に合ったようにどのように工夫するのか、「寒いし、これ着ていきなさい！」「いや！こっち」「寒くなるって！」「いや～」なんていうことが往々にしてあるのでないでしょうか。寒くなったら（風邪をひいたらかわいそう、お母さんも大変、我が子だけ半袖だったらおかしい？）自分で「寒いです。服を貸してください」とお願いするように言う、カバンに上着を入れておく、ボックスに入っているのを出してみる等々。年齢が進むにつれて、自分で、自分の状態を伝えることができる嬉しいですね。しかし、子ども達は遊びに、何かに集中して、熱中して取り組んでいると、聞く耳をもたないこともしばしば。いくら言っても無駄ですね。子ども達が心身共を駆使して、アンテナを貼って取り組むことが大切な活動のひとつなのです。それは、「考えている」ことそのものの姿だからです。取り組んでいる時の表情はとても真剣なのです。「はやくしなさい！」と声をかけるのみではなく、大人は、子どもさんの表情をチェックし、とても真剣ならば、少し様子を見ようと思えるほどに心に余裕が欲しいものです。子ども達が好きな遊び、物事に出会っているということはとても幸せなことですね。

この2学期は、一段と子ども達の心身共の成長を引き出せる時、引き出される時でもあります。その為には、各々の行事が個々のステップアップの良いきっかけとなりますようお手伝いしたいと思います。集中・挑戦・試行錯誤・成功・喜び（その中に我慢も）等の心を強めていきましょう。

## 《 チャプレンコーナー 》 10月

月聖句：わたしは植え、アポロは水を注いだ。

しかし、成長させてくださったのは神です。

(コリントの信徒への手紙特 3：6)

主題聖句の中の「わたし」とは、パウロのことです。パウロもアポロも、初代教会の偉大な指導者でした。コリントという町にある教会は、この二人が苦勞して立ち上げたものでした。この教会ではこの時「パウロ派か、アポロ派か」で、分裂しかかっていました。そこでパウロは信徒達に次のような手紙を書きました。

私もアポロも、教会設立のきっかけは築いたが、本当に信徒達を育て、守って来たのは、神様なんだよ。そのことをちゃんと理解して、みんな支え合って助け合って信仰生活を送らないといけないよ、と。私たちは、自分の担っている仕事や役割が、重ければ重いほど、自分一人でやっているような気になります。「なぜ自分ばかりか」と思ってしまいます。ストレスで大変です。けれどもたぶん本当は、多くの人々の支えと協力があるのでしょう。そしてその背後には、目には見えない神様のお支えとお導きがあるのでしょう。

先日、教会の集まりの講演会で、カトリック教会の神父さんがお話くださいました。その方は、「教会はもっと、家族のような暖かい交わりを広げていかなければならない」という考えの基、数名から数十名のグループを、いくつも作って来られたのだそうです。まず、一緒にご飯を食べ、語り合い、そこから多くの人が仲良くなり、元気になっておられるそうです。人間にとって孤独は辛いものです。人間は支え合って生きているものです。お互い支え合っていきたいものです。そのような交わりの中で、神様がきっと私たちを支えてくださいます。

## おたんじょうび おめでとうございます

3日：のむら みゆきせんせい	6日：やまがみ かこちゃん
10日：べっしょ くにひこくん	16日：やまだ たつしくん
17日：いとう はるかさん	18日：だん さとこせんせい
19日：みずた えまちゃん	20日：ひらおか ちさちゃん
20日：うらち あいせんせい	23日：くさの まりせんせい
27日：みむら ゆうきくん	

### <生活指導>

☆ 秋の自然を見つけてみましょう。

- ・ 木の葉・木の実・草花・虫・果物・空・雲・風 etc. 身の回りの自然に目を向け、季節の変化に気づき、自然の不思議について考え、自ら関わる事で親しみを持ちましょう。  
(大人がねらいを持っての言葉の投げかけも大切です。)

☆ 運動会を機会に身体全体の様々な運動に対し、取り組む意欲を養い、子どもの発達を注視し、成長を促してみましょう。

- ・ 運動会はひとつの機会にすぎません。日々の機会がどこにあるのか、また機会をどのように捉えてみるのか、基本的な体の動きを確認しながら、親子で楽しんでみましょう。
- ・ 気候の良い時に、保護者の協力のもと、戸外で身体を動かして遊びましょう。  
例えば、ボールころがし・キャッチボール・ボールつき・バトミントン・大縄跳び・縄跳び・ケンパ・鉄棒・フットサル etc. ゆったりとした時間を作り、お父さんお母さんの幼児期を思い出し、近くの公園で一緒に遊んでみませんか。
- ・ 身体を動かす基本動作 (跳ぶ・走る・渡る (側溝の上等も) 跨ぐ・潜る・でんぐり返り (前転と後転)・転がる (横転)・背伸びする・線の上をつま先歩きする・両足跳び・けんけん・ギャロップ・スキップ etc. 家の内外で沢山その機会を捉えてみましょう。
- ・ 手先の動作 (巧緻性=器用さ) もとても大切です。

クレヨンでしっかり色が塗れる (はみ出さずに、白い所が無くなるまで、しっかり色を塗る事ができる etc. (クレヨンを塗る力加減で鉛筆や消しゴムが上手に使えるようになります。))

はさみを使う

(どれだけ線に沿って切れますか。どちらから切り始めていますか。反対の手はどのように添えていますか etc.)

じゃんけん（指1本ずつがしっかり動かせますか？）が出来ますか？

（勝ち負けの意味がわかりますか。）

お箸が使えますか（お箸・スプーン・フォークの使い分けが出来ますか？） お箸もスプーンも

正しい持ち方で＝花組でも十分に使いこなしている児もいます。勿論個人差はありますが、例えば、エジソン箸よりも、ことばを添えて根気よく方法を教えて下さる方がよいでしょう。

- ・ 何事にも、「やってみなさい」とみせるのではなく「こうしてごらん」と同じ方向から手を持つったり、添えながら教えてあげて下さい。

☆ 2学期は各々の学年で子どもが個人差を持ちながらも各々に大きく自立しようとする大切な時です。

- ・ 保護者は、自律＝自立の意味（自らやってみようとする意欲が大切）をしっかりと把握しましょう。
- ・ 愛情を注ぐことと言いなりになることとは意味が違います。（親の手を出さない我慢が大切です）
- ・ 子供が自立するという事の意味はいっぱいあります。「しっかりしてほしい」とい一つ・・・。口と一緒に手を動かし、助けてしまっていないですか。
- ・ 大人もしっかり返事や受け答えをしてみましょう。大人の意見を押し付けたり、何も気にせず通りすぎない様に。（大人のその時の気分や時間の無さで知らずに通り過ぎていませんか）
- ・ 子どものお話にゆっくり耳を傾け、同じ方向を向いて話を深めてみましょう。
- ・ 「ハイ」の返事が出ません。呼ばれたら返事をし、自分の存在を知らせられるように。
- ・ 相づちが打てません。自分の意志が十分に表現できますように。
- ・ 大人が大切な話をしている時には、子どもが我慢する事も必要です。
- ・ 様々な場面展開に対応出来るように、大人は言葉掛けに工夫してみましょう。

☆ 社会（国際・日本・都道府県＝郷里・地域など）の事象に触れてみましょう。

- ・ 社会事象から、世界〇〇〇など様々な報道がされています。地球儀や地図等を真ん中に、顔を寄せ合って自分の存在地点（国、他国）を確認してみましょう。
- ・ 大人は子ども達とその話題を共有することにより、子どもに合わせて解りやすく説明してあげることが必要です。絵本・新聞・テレビ等を通して、ちょっと時間を作ってみませんか。
- ・ 身近な地域の人たちとの接触も大切です。町内の行事等にも参加し交わってみましょう。

☆ 体調を気遣いましょう。

- ・ 昼夜の気温の差に対応できるよう、こまめに衣服の調整を致しましょう。

（ことばをかけながら、本人にも気づかせましょう。）

- ・ 上着は保護者が持ち帰らず子供にお預け下さい。（自分のものとして処理できる様に）

## <こひつじの会よりひとこと>

食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋、実りの秋と楽しみの多い季節がやってきました。  
新年度が始まってから早半年…あっという間に10月ですね。

三学年年上の息子がマリア幼稚園を卒園し入れ替るように、娘を入園させて頂きました。  
今年の娘との芋ほり遠足を楽しみに思う中で、三年前の芋ほり遠足の記憶が蘇ってきました。  
当時息子は花組さんで、芋ほりの途中で飽きて虫採取に夢中になってしまい、代わりに私が  
0歳の娘を背におんぶしながらお芋を掘りました。

また、運動会では負けず嫌いな息子が一生懸命に頑張る姿が今でも目に焼きついています。  
初めての参加となる娘の今年の運動会もとても楽しみです。

園の活動や行事を通して、兄妹の性格、興味や物事の感じ方の違いを楽しみ、二人の成長を感じれ嬉しく思います。娘は毎日幼稚園での出来事を嬉しそうに、息子は幼稚園での思い出を今でもお話してくれ、家族で沢山話し合っています。兄妹で幼稚園のお歌やお祈りを一緒に歌ったり踊ったり、息子が園で教えて頂いた大切な物事を妹に教えてあげている姿はとても微笑ましく思います。

私自身もいつも親身になって支えてくださる先生方、沢山の保護者の方々に助けられ、楽しく幼稚園生活を過ごすことができ感謝の気持ちでいっぱいです。

書記 花組 青木有香

## <クラスだより>

### 花組

「先生？…一人で被れた…」と複雑な表情で見上げる子どもの顔…。赤白帽をご用意いただいて、被ることを楽しみにしていた子ども達。その子どもたちの行く手を阻んだのが「帽子のゴム」でした。なかなか手ごわい相手です。ゴムを引っ張りながら顎にかけて頭に乗せる。強く引いて手が離れればパチーンと襲われるし、被れてもゴロゴロと顎のあたりが気になるし、なんだか気になって口に入れて噛みたくもなる…被れないとイライラするし、被ったらソワソワする相手なのです。そんな相手と対峙すること複数回…「できひ〜んっ」と眉を寄せていた子どもの初めて「できた」の瞬間…「被れてる？」と言いたそうな複雑な顔に「うん、被れてるよ。一人でできたねえ」と答えました。それから何度か赤白帽子を被るときはお互い気になって「被れてる？」「被れてる！」のやりとりを繰り返し、そのうち確認の必要がなくなりました。「運動会」は競技内容を「練習」というよりも、むしろ「運動会」を通して「靴/靴下を左右に気をつけて一人で履く」「帽子を自分で被る」「並ぶこと、順番を意識す

る」など子どもたちが集団の中で必要な約束事を獲得しながら、自立する場面が多くあることに気が付きます。競技の練習を始めて通して行ったとき、それまで「よーいどん」で走って帰ってくることや、部分的な動きだけだったのが、全体の内容を先生の動きを通して説明しました。真剣に見聞きする子どもたち。中でも、ちょっぴり不安気だった子が『もう、一人できると思うわ』と一言。そして意気揚々とスタートを切って走りだしました。帽子のゴムも競技への不安も子ども達が「気にしていること」がどこにあるのか…ついつい目に見えることで答えを求めようとしてしまうのは大人の悪いところだなと子どもたちの「できた！」の瞬間に立ち会う度に痛感し、同時に愛おしさが爆発しそうでした。そんな可愛い子どもたちが初めての運動会でお見せするのは、スキップの基本となるギャロップを意識して馬に跨り駆け抜ける「お馬さんパカパッカ〜ン」と手作りした子どもの背丈ほどある大きな魚を釣り上げに行く「お魚釣りに行こうよ♪」です。くねくね道を進む、フープを潜ると言った関門を乗り越えて、子どもたちが見せる堪らなく真剣でキュートな表情に大きなご声援をよろしくお願い致します！そして競技では見えないところで、子どもたちが「できた！」という経験を自信に変えてきたことに想いを重ねていただけると幸いです。

10月。早いもので花組生活が半分過ぎ、後半へ向かいます。そしてその時間を共に過ごしたお友達と残念ながらお別れし、新たにエジプトからのお友達を迎えることになりました。子どもたちが「お別れ」と「お迎え」を受け入れ、各々の生活が新たな場所で気持ちよくスタートできることを願いたいと思います。少し涼しくなってきました。園庭遊びにお散歩も！戸外での活動を充実させたいものです。9月は雨が多く室内遊びが多かったのですが、恐竜のフィギアを使ったごっこ遊びや、おままごと、積み木遊びも友達と一緒にという姿が見受けられるようになってきました。季節の変化と共にじっくりと「遊びの時」を過ごしたいと思います。

## 赤組

リンゴの空き箱に入った運動会用品をホールに置いてみると、「今日リンゴ競争するの？」と聞いてくる子ども達。よほど昨年もらったリンゴがおいしかったのか、運動会=リンゴ競争となっている子も…もちろんリンゴ競争もしますが、そのほかにも赤組さんは、「忍者修行だ！忍・忍・忍」と「ダルマ競争」をします。

1学期の終わりから家で手裏剣を折って持ってきていたり、朝登園する際に担任に見つからないように靴箱に、そして赤組のお部屋に行くことを「忍者みたいでしょ？」と自慢げに言っていた子ども達の姿から、「忍者修行」という題材にしてみました。すると予想以上に楽しんで修行という名の障害物競争に取り組む姿が見られました。中でも、平均台を腹ばいになって這うところは、自由遊び時に子どもたちから始まった遊びで、「これは忍者っばい！」という担任の思いと一致したことで入れてみました。このような使い方をしたことがなかった平均台でしたが、挑戦してみるとなかなか上手に手と足を使い、前へ前へと這う事ができたのです。

平均台の上という限られたスペースの上で、自分の身体のバランスを保ちながら、前へ進むのは簡単なことではありません。しかしさすがは赤組さん！練習をするごとに、どこに手を置いて、どこに足をかければ進むことができるのかを、体得していきました。運動会本番では、直線平均台とくねくね平均台の2種類から自分で選択して進みます。また運動場では運動靴での挑戦です。少し裸足のときと感覚が異なるかもしれませんが、運動会本番はどちらを挑戦するのか！？そして子ども達にとって意外と難しいのが、息を吹く修行のようで…どれだけ吹いたら炎に見立てたスズランテープが飛ぶのかの感覚がまだつかめていない様子。だって「これくらい吹くんだよ」と言っても息って目に見えないですもんね。そこで園長先生よりアドバイスを頂き、息を目に見える形にして実験をしたいと考えています。無事に吹くことができれば、忍者にとってはかかせないあのアイテムを手に入れることができることになっていますよ。

こうして取り組んでいる修行ですが、忍次郎さんからの手紙には「つよいからだかつよいこころをてにいれるため、まいにちしゅぎょうするのでござる」とありました。そうです、できることだけがいいのではないのです。最後まであきらめない心、勝っても負けても一生懸命な心が大切なのです。そしていくら楽しい運動会であっても、真剣に取り組まなければ怪我につながってしまうのです。今の赤組さん、この忍次郎さんの言葉のおかげか？足が強くなってきました。それから少し練習が嫌だと思っても頑張ることができるようになりました。また楽しい中にも真剣に取り組むことができる強い心になってきました。そして頑張るお友達を見守って応援できるようになってきたのです。なんと嬉しいことでしょう。みんな楽しみながらも、しっかりと大きくなっているのです。最近音沙汰のない忍次郎さん！こんな赤組さんの姿どこかで見てくれているのかな？そんなこんなで心も身体も修行中の赤組忍者に注目です。

そしてそんな忍者修行を幼稚園でしていると、「家でも修行してくるな」と何やらその子なりのトレーニングをしている子、また忍次郎さんにお手紙を書いてきてくれた子もありました。ちゃんと忍次郎さんは読んでくれたようで、お返事まで届きましたよ。それからみんなで手裏剣も折ってみました。このように1つの事からいろんな活動につながるって、楽しいですね。子どもだけでなく、担任も忍次郎さんに楽しませてもらっています。

運動会は練習だけでなく、その準備も子ども達と一緒に進めています。先日は、ダンスで使うアイテム作りをしました。ただ作るのではおもしろくないなと思った担任は、クラスを4つのグループに分けて活動しました。4というとちょうど赤組の女の子の数と一緒に！ということで、それぞれのグループのリーダーを女の子にお願いしてみました。「今日はあなたがリーダーさんね」と言ってもらえると、その日その時にみんなのために頑張るぞ！という気持ちが湧いてくるようで、張り切ってくれた女の子達。自分のグループの人数を数えてみんなに配ってあげたり、先生から聞いたことをみんなに知らせたりしてくれました。グループ内では、困っているお友達がいたら助け合ったり、「できる？」と声を掛け合ったりする姿も見られました。「教えてあげて」と言わなくても、お友達に聞いてみよう、教えてあげようという気持ちが出

てきたことが成長だなあと。好きなお友達がいるのも大切だけれど、こうしてたまにグループごとに活動してみると、新たなお友達の一面をそれぞれに発見することができるのだなと思ったのでした。

こうして毎日を過ごしていると、あっという間に運動会が近づいてきました。去年は体育館での運動会、そして自分のことで精一杯だった子ども達。今年は秋晴れの運動場で、お友達と力を合わせてできるかな？ 楽しい中にも、真剣な子ども達の姿、そしてたくさんの笑顔が見られますように。赤組頑張るぞー！ エイエイオー！！

## 緑組

先日、ふと見上げた地下鉄の広告。京都府私立幼稚園連盟のポスターに“こころのねっこを育てよう”と書かれてありました。と同時に台風21号の爪痕を思い出しました。私が大好きな鴨川の景観が変わってしまうほどでした。お気に入りの木も根こそぎ倒されて、買い物ついでに目にした、宝ヶ池のホテルの周りの大木もドミノ倒しのように、災害の大きさを見せつけられたようでした。一生涯の間にこんなに酷い災害に会うことは稀なのかもしれません。同じように生えていた木々。何が違ったのでしょうか？ 立っていた場所？ 枝の張り方？ 樹齢？ 子どもたちもそれぞれの育ちがあります。今の時代は自分たちが育ってきた時代とは異なってきています。今までになかった予想だにしている事が次々に起こっています。いつまでも永遠に親がいて守ってあげられるわけではありません。ならば 心の根っこをしっかりと地に張り、どんなことがあっても、倒れず生き抜いていく生命力、生活力、生きる力を育ててあげたいですね。あの凄まじい台風の日とは違って、9月の中秋の頃の夜空には綺麗な満月が浮かび静かに穏やかに私たちを照らしていました。出来ればあのような恐ろしい災害が二度とやって来ませんようにと祈るばかりです。

猛暑から一転、中旬以後お天気が比較的芳しくない日が多かった9月でしたが、晴天の下の運動会を思い浮かべながら、毎日ホールで一生懸命練習をしています。Jumping（体操教室）で、今までは一人一人を先生が丁寧に指導してくださっていましたが、組体操はそういうわけにはいきません。誰かに支えてもらい、誰かを支えていなければなりません。一人が力を緩めるとバランスが崩れて、危ないのです。それがわかった子どもたち、柔軟体操からいつも「痛い痛い」とちょっと弱腰で泣き言が出てしまっていた〇〇ちゃん。自分の為に友だちの為にこらえています。みんなも「うっ！くっ！」と友だちの為にがんばっています。まさしく“人という字は…”という意味そのものです。

ついこの間まで、「みて～みて～」と自分を強くアピールしていた緑組さん。少し変化が見えてきました。お友だちの頑張る姿に目を向けるようになってきました。のんびり構えていた縄跳び。運動会で跳ぶかもしれないから練習しておくように何度も伝えていましたが、一向に練習する様子がありませんでした。しかし、友だちが上手く跳べるようになっていくのを目の

当たりし、ウサギと亀のウサギのように自分が練習をしていなくて、全然跳べないことに焦りや、もっと友だちより跳びたいと感じるようになりました。そして、いつもなら、すぐに諦めてやめてしまう△△くんも、諦めません！ 5回 10回 22回と回数を伸ばしています！ 跳べた時に先生や友だちから拍手喝采でした。 毎朝登園後、一人二人と練習する子が増えていきます。こんなに一つのことには一生懸命に取り組む姿は初めてです。跳び箱にも同じ現象が起こっています。もちろん自信のない子も、コツがまだ掴めていない子もいます。友だちの刺激を沢山受けて、がんばってほしいのです。みんなが応援していますから。そして本番は出来たか出来なかったかではなく、一生懸命に行っていた日々の練習の過程や積み重ねを思い浮かべながら、見守って頂きたいと思います。勝って嬉しい！ 負けて悔しい！ 緑組さんの気持ちが運動会を盛り上げてくれています。相手チームにエールも忘れないでね！

さあ運動会まであと少しです！ フレー フレー みどりぐみ！ フレーフレーみどり組！